

モニタリングで抽出された 「優れた取組み」と今後への期待

平成26年2月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

報告内容

- モニタリング報告書の中の「抽出された優れた取組み」欄から整理※
 - 「概要」(トップページ)にも書かれたものを中心に抽出
- 基準ごとの「取組みの特徴」文中に書かれた「～を期待したい」として、更なる発展を期待している事項を整理

※次ページ以降に掲載した基準ごとの「優れた取組みの例」は一例を示したものであり、類似の取組みを行っている大学が別に存在する場合があります。

基準1:教育プログラムの目的

海外大学との共同教育プログラムの目的が明確に定められ、参加大学の間で共有されているか。

優れた取組みの例

- **これまでの交流経験を基盤としたプログラム形成**
 - これまでの交流経験の蓄積により初めて可能となるプログラム形成。他国が参加しやすい、アジアにおける共通法構築という普遍的な課題を設定。
 - これまでの学生派遣実績や研究者間のネットワークを基盤にプログラム開発。複数大学によるコンソーシアム構築により、学生が選択可能な研究テーマの多様性を確保。
- **独自性を有するプログラム目的・基本枠組み**
 - 参加する各大学の学問分野の強みを活かす形で、学際性に富んだ国際協働のダブル・ディグリープログラムを開発。
 - 日中韓3か国を同じ期間(10週間ずつ)まわる「移動キャンパス」の仕組みにより、生活のなかで相互理解を促進するプログラムを開発。
- **相手大学や学生との目的の共有**
 - 東アジアにおける公共政策・国際関係分野での学位プログラムをつくり、優秀なグローバル人材を養成することを3大学で共有。学生が本プログラムやキャンパス・アジアで期待されている人材像を理解し、3か国間にまたがる公共政策・国際関係分野の課題を、授業外の場合を含めて共に議論して学習することで、相互理解を深めている。
 - 日中韓の共通の教科書づくり。
- **その他に、全学の国際戦略との連動、求められる知識・スキル・能力の明示、など。**

基準1:教育プログラムの目的

海外大学との共同教育プログラムの目的が明確に定められ、参加大学の間で共有されているか。

今後の取り組みへの期待

- **日中韓の双方向交流の意義の明確化・共有**
 - 日本からもダブル・ディグリーを目指す学生が入学するように、学生や関係者と目的共有を強化し、更なる学生交流の設計・実施を進めることを期待する。
- **育成する人材像を明確化**
 - 育成する人材像に必要な具体的な能力や態度などの内容をさらに検討して明確に定め、学習成果の把握へとつなげていっていただきたい。
- **基盤となる学術的内容の共有**
 - 共通カリキュラムの構築について、今後の更なる進展が期待される。

基準2－1：実施体制

目的を達成するための体制が、参加大学等の間で適切に構築され、機能しているか。

優れた取組みの例

- **協定書・覚書等の詳細な策定**
 - － 3大学共通の実施体制ガイドラインを策定し、手続きの詳細を文章化。
- **参加大学間の会議の効果的な実施**
 - － QA協議会を設立し、年2～3回各国持ち回りで開催。プログラムの運営方法や課題等を検討。
 - － 「三大学教職員合同会議」を各国持ち回りで実施し、その円滑な実施のために、遠隔システムを利用して「実務者会議」を実施し、議題事項を打合せ。
- **中韓との密な交流が可能な体制構築**
 - － 「キャンパスアジア室」を設置し、中国語・韓国語ネイティブや両国での教育研究経験を有する者、英語をハイレベルに駆使できる者を配置。プログラムの運用と学生サポートを実施。
 - － 中韓の当該分野を専門とする教員、中国へ留学経験のある教員、日本で学位を取得した中国人・韓国人教員を本プログラムの担当教員の中心に配置。
- **英語を基本とする既存体制の活用**
 - － 日本側ではもともと学生の6割余が外国人留学生のため、講義使用言語、講義資料、事務連絡、手続き様式の一切で英語を使用。
 - － 参加大学は全て、英語のみによる学位授与を行う経営専門大学院。教員全員に英語で指導することが求められる。事務職員もすべて英語での対応が可能。すべての資料・案内が英語。
- その他に、学内他部署との連携など。

基準2－1：実施体制

目的を達成するための体制が、参加大学等の間で適切に構築され、機能しているか。

今後の取組みに期待する点

- **多数大学によるコンソーシアムでのノウハウ共有**
 - － 中国や韓国側とのノウハウ共有・ガイドライン作成などの、共同した体制構築をさらに進めていただきたい。
- **学内の協議体制の確立（特に複数学部が関わる場合）**
 - － 各大学内の学部長や副学長など最高レベルの協議体制との関係をより明確化することや、共通学務委員会の設置の検討も期待したい。

基準2-2: 教育内容・方法

目的を達成するために適切な教育内容や教育方法が共同して検討され、実施されているか。

優れた取組みの例

- **学生ニーズに即した多種のプログラム構成**

- 参加学生の教育研究水準の発展に対応して、「(a)セメスター単位の科目履修や研究室での実験等のプログラム」、「(b)研究経験を含むサマープログラム」、「(c)大学院課程研究重視型教育プログラム(大学院共同指導プログラム)」の三つの枠組みを提供。

- **特別なカリキュラムやコースの形成**

- 学生が3か国を回るDDプログラムを開始。はっきりとした目的意識を持った学生を募集すべく、中韓の単位互換を修了要件に組み込んだ新しいコースを設置し、選抜方法も面接を重視するように変更。
- キャンパス・アジアのために日中韓の3大学が開発した授業で、一貫したカリキュラム。3大学が語学授業と人文系演習授業の割合を統一し、授業内容を調整。

- **短期集中プログラムでの3か国学生の共同学習**

- 短期集中プログラムでは、3大学の学生が3か国の3都市を回り、ともに授業を受け、各国の主要企業を訪問し、ビジネスリーダーとの交流、プロジェクトを担当して過ごす。

- **研究活動を中心とする教育プログラムでの工夫**

- 研究重視型教育プログラムでは、学生の学修計画を準備し、学修の記録を残すための方策を大学間で協議して開発。指導教員の連携や、留学前の指導・助言、留学後の成果の確認に活用。

- **事前学習の充実**

- 日本からの長期派遣学生は、1年間の事前学習を行い、語学や日本における当該分野の学問の基礎を身につけてからの留学になるので、一般留学生と比して学習成果が高いとの評価。

- その他に、専門職人材育成のための現地教育(企業見学、インターンシップ、外部講師)、各国の言語・文化の教育、適切な学生の確保のための工夫、国際共同による相補的なカリキュラム構成、など。

基準2－2：教育内容・方法

目的を達成するために適切な教育内容や教育方法が共同して検討され、実施されているか。

今後の取組みに期待する点

- **教育目的に即した教育内容の開発**
 - － 自然科学分野を含め、より具体的な教育内容・方法へと共同で検討・実施していくことを期待したい。
- **研究活動を中心とするプログラムにおける教育方法**
 - － 研究活動を中心とする大学院生中心の交流プログラムとして、効果的な教育内容や教育方法、ならびに単位化の仕組みを、参加大学間で共同してさらに検討していただきたい。
- **相手大学との学位授与の情報共有**
 - － （学位授与がそれぞれの大学で判断される場合に）、学位授与状況等の相互の情報共有を進めていただきたい。

基準2－3：学習・生活支援

学生が適切に学べる環境を形成し、学習・生活面の支援を行っているか。

優れた取組みの例

● 受入学生の支援体制

- － Student Officeが入国前に生活支援情報を記載したマニュアルを送付し、入国後の日常生活全般の支援を実施。学生寮、学内診療所でも英語でのサービス・情報を提供する体制。
- － 受入れた外国人留学生に対して、履修指導、学生サポーターの配備、指導教員の配置、日本語・英語教育の実施、その他生活面での各種支援を適宜実施。研究室ではサポーターを配置。

● 派遣学生の支援体制

- － 派遣学生に対しては、派遣後3ヶ月を目途に現地に教員を派遣し、現地での生活・学習状況に関するインタビューを実施。受入大学の責任者ならびに講義担当者に対してもインタビューを実施。

● 手引き書

- － 3大学のカリキュラム・単位認定方法の協議と共同シラバスの作成。それらの普及のための、ラーニング・アグリメント「プログラムの手引き」の発行。

● シェアハウス

- － シェアハウスの借り上げ(3か国の学生が共同生活し、教室以外で交流)。

● 学生同士の相互支援

- － マンツーマン体制でTAを配置。TAを務めた学生が翌年に交換留学に参加するなどの実績。
- － 交換留学から一時帰国中の学生と派遣予定の学生との情報交換会。
- － 日本人学生のボランティアサークルによる生活面・学習面のケア。
- － 語学カフェとランゲージエクスチェンジを日常的に運営。語学カフェは全学に開放されており、交流を図る機会。

● その他に、共同シラバス等による情報提供、就職支援など

基準2－3：学習・生活支援

学生が適切に学べる環境を形成し、学習・生活面の支援を行っているか。

今後の取組みに期待する点

● 学生間の交流

- － キャンパス・アジア以外の日本人学生と中韓からの留学生との交流を促進する工夫をさらに進めていただきたい。
- － 派遣前の事前学習・指導の充実、SNSの活用等による参加者・支援者の情報交換や生活・学習状況等の可視化、より一層の支援の手段の検討を期待したい。

● 学生への事前情報の拡充

- － 留学先の生活情報に関して、留学した学生の声を蓄積し、次の派遣学生に情報が提供される仕組みが設けられることを期待したい。プログラムの目的や相手大学において履修すべき内容について、事前の情報提供をさらに進められたい。
- － 3大学の間で単位認定可能な科目の明確化と学生への情報提供をさらに進めていただきたい。

基準2－4：単位互換・成績評価

単位の取得や海外大学等との互換方法、成績評価の方法および海外大学等との互換方法が定められ、機能しているか。

優れた取組みの例

● 単位互換における換算方法・上限管理

- － 日中韓の単位互換の比率を各大学における授業時間数をもとに1:1:1に定めた。各校の規則から単位数の上限を設けた。DDプログラムについては、相手大学と自大学のコア科目の対応表を作成し、重複して履修することがないように工夫。全科目の対応の可能性の検討も始めている。
- － 語学科目・専門科目での単位認定のすり合わせ、補講の実施も含めた授業時間数等の調整。

● 研究活動の単位化

- － 派遣先研究室での研究活動を「研究インターンシップ」に近い概念でとらえ、派遣先で単位が付与されなくとも、派遣元大学において活動実績をもとに単位を授与する方式を導入。
- － 夏季休暇期間および冬季休暇期間において派遣先大学で実施した研究成果については、1週間の研究に対し1単位を認定できることとしている。

● 成績の換算方法

- － 成績評価については、成績評価の換算表を作成し、評点に基づき成績を相互に認定することで合意。3大学の教員が集まった際に、教員間で成績の付け方の検証が行われている。
- － QA協議会が策定したガイドラインに基づき、講義担当者が原案となる成績評価を行い、QA協議会に報告。名古屋大学では、成績については、読み替え表を作成し、中国のAを日本のSと読み替えるなどの方式を定めている。
- － キャンパス・アジアプログラム用にウェブ履修管理システムを開発し、各国言語によってシラバス入稿・公開、成績評価入力・公開が行える。学生も、いつでもこの国にいても、シラバスや自身の成績評価の確認が可能。

● その他に、ダブル・ディグリー授与の認定の体制、修了証書の発行、など。

基準2－4：単位互換・成績評価

単位の取得や海外大学等との互換方法、成績評価の方法および海外大学等との互換方法が定められ、機能しているか。

今後の取組みに期待する点

- **学内の複数学部、相手大学との単位互換の方法の改善**
 - － 3大学の単位互換制度や運用の改善をさらに進めていただきたい。
 - － 日本側の大学内での学部・研究科での単位認定取り扱いの協議、ならびに、成績評価や単位認定のための基準設定に関する参加大学間の協議・調整が望まれる。
- **研究活動の内容把握**
 - － 派遣先での研究活動の状況や成果を適切に把握して単位授与する工夫をさらに検討していただくことを期待したい。また、各国の学生にも派遣前に単位授与や単位認定の仕組みについて十分な情報が伝えられるような工夫を望みたい。
- **成績評価の調整**
 - － 成績評価の互換方式の検討などをさらに進めていただくことを期待したい。
 - － 成績評価に必要な学習目標の達成度の検討や、成績分布の情報共有がなされることを期待したい。

基準3：学習成果

教育プログラムの目的に即して学習成果を測定する方法を設定し、成果が適切にあがっているか。

優れた取組みの例

- **育成する人材像に照らした到達度アンケートの実施**
 - － 年1回の到達度アンケートを3か国同時に実施。4年間を通じての学生の到達度の検証が可能となるよう設計。回収したアンケートは専門家を通じて結果分析をして、客観的に検証。
- **海外滞在中の学生による定期的レポート**
 - － 派遣学生・受入学生ともに全員にマンスリーレポートの提出を課して、定期的に成果を見るシステムを整備。情報は蓄積のうえ、必要に応じて、問題点の把握に利用。
- **シンポジウム・フォーラムでの学生の報告**
 - － 日中韓共同学習では、「学生フォーラム」として、「日中韓の相互理解」をテーマとする学生カンファレンスを学習の総括という位置づけで実施。その成果を『カンファレンス文集』にまとめている。
- その他に、学生アンケートの実施、教員アンケートの実施、語学検定試験による成果把握、など。

基準3: 学習成果

教育プログラムの目的に即して学習成果を測定する方法を設定し、成果が適切にあがっているか。

今後の取組みに期待する点

• プログラムとしての学習成果の測定

- プログラムとしての学習成果の測定や、成果の適切性について、相手側大学とも協議を行っていただきたい。
- 具体的には、たとえば、語学力ではプログラム参加要件の語学資格試験等による検証、各科目では3大学による評価基準の標準化の取組み、目指す人材像への到達度については学生の満足度・成長実感と共に、プログラムのテーマに即したレポートや論文、プレゼンテーションなどによる3大学共通の評価の仕組みの導入検討を願いたい。

• 研究活動を中心とするプログラムとしての、学習成果の測定

- 研究活動を中心とするプログラムとしての、教育目標や人材像に即した学習成果の測定が進められることを期待したい。
- たとえば「世界のリーダーシップをとれる研究者」としての素養に関する学習達成度アンケートの充実や、履修後の追跡調査など工夫の余地はありとえられる。

• 学習成果の把握結果を改善に活かす仕組み

- レポートの学習成果把握面での活用方法や、得られた課題点の共有・改善をする仕組みについて、引き続き深めていただくことを期待したい。
- 評価をプログラムの改善に活かす仕組みを整えることが今後、重要であり、期待したい。

基準4：内部質保証システム

内部質保証や改善のための体系的な取り組みが、参加大学との連携のもとで行われ、機能しているか。

優れた取り組みの例

- **学生アンケートや履修状況分析などの多面的取り組み**
 - － 派遣学生・受入学生へのアンケート調査とレビュー、事前教育・附属プログラムの参加学生へのアンケート調査とレビュー、および履修状況と学習成果の分析が行われている。
- **外部評価**
 - － 日本および海外の外部評価委員を招いてアドバイザリーボード・ミーティングが開催され、本プログラムについての評価と今後のアドバイスを頂き、本学出席者とともに意見交換を行った。
- **外部質保証**
 - － 3大学の各研究科はそれぞれに国際的な大学認定機関によって認定を受けている。
- **内部質保証システムによる改善への取り組み**
 - － 3か国の6大学のプログラム運営責任者が参加する日中韓運営責任者会議を定期的に行う。学生交流、単位認定など活動上の課題点を議論し、改善への取り組みを行っている。
- **情報発信**
 - － 本プログラムの教育内容や学生の学習成果・教育効果の情報は、高校生セミナーやホーム・カミングデー、新任研修会におけるポスター発表を通じて発信している。

基準4: 内部質保証システム

内部質保証や改善のための体系的な取り組みが、参加大学との連携のもとで行われ、機能しているか。

今後の取組みに期待する点

- **参加大学間での連携**
 - 参加大学で、アンケート等の結果や外部評価の結果を共有して、共同で改善に活用する努力を進めていただきたい。
- **各種の質保証手法の実施**
 - アンケート調査の分析、学生の経験の蓄積や、外部レビュー等の取組みを期待したい。
- **外部レビュー、情報発信**
 - 外部有識者による評価に意欲的に取り組むとともに、広報・普及活動を通じて本プログラムの一層の認知度の向上に努めていただきたい。
- **課題解決への活用**
 - 参加大学で、結果を共有し、改善に活用しようという努力を引き続き進めていただきたい。
 - 明らかとなった各種の課題を学内で検討する組織を、各学部をまたがって用意することが望まれる。